ほっこう

甲府市立北新小学校
２０１４．１０．２３
Ｎｏ．７
発　　行：　校長室

全国学力･学習状況調査の結果について

１　本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語Ａ、国語Ｂ、算数Ａ、算数Ｂともに全国平均と同等となっています。

調査問題によって正答率に高低はありますが、国語Ｂにおける「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が特に全国平均、県平均よりも上回っています。算数Ａでは「繰り上がりのある加法の計算」「四則の混合した式の意味について理解しているかを問う設問」に高い正答率を示しています。また、算数Ｂは全国平均、県平均よりも上回っています。

２　本校の主な課題と改善

国　語

国語Ａ　主として「知識に関する問題」からみえた課題

○既習漢字の読み書きの定着がやや不十分である。特に、漢字を正しく書くことの正答率が若干低かった。（特に「道路の標識を見る」の読み、「かぜをよぼうする」の書き。）

○物語を読む際、物語の登場人物の相互関係を捉える設問の正答率が低い。

国語Ｂ　主として「活用に関する問題」からみえた課題

○「質問の意図を捉える」設問の正答率が低い。

○付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える設問の正答率が低い。

○課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む設問の正答率が低い。

改善点

○漢字を習得させるためには、新出漢字を繰り返し練習したり、既習の漢字を意図的に復習したりできるように指導する。

○読み聞かせ等を利用して多くの物語に触れる機会を増やすとともに、読書活動のさらなる推進を図るように努める。

○話し合いの場において、話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何か等といった観点に基づいて、相手の話の内容を十分聞き取ることができるように指導する。

算　数

算数Ａ　主として「知識に関する問題」からみえた課題

○被乗数に空位のある整数の乗法の計算の理解が不十分である。（９０３×６）

○割合が１より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解しているかどうかをみる設問の正答率が低い。

○分数の相等及び大小について理解しているかどうかをみる設問の正答率が低い。

算数Ｂ　主として「活用に関する問題」からみえた課題

○最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を言葉と数を用いて記述する設問の正答率が低い。

○示された情報を解釈し、基準量の１．５倍の長さを表している図を選択することができるかどうかをみる設問の正答率が低い。

改善点

○基礎的･基本的な計算の技能の習熟や維持を図るために、適度の繰り返し練習の機会を設ける。
○分数を具体物、図、数直線等を用いて表すことで、分数の大きさを実感できるように分かりやすく指導する。
○一目盛りの大きさやグラフ全体の大きさを決め、一目盛りの大きさを工夫し、指定されたグラフ用紙にグラフを書く活動を取り入れながら、それを言葉で説明できるように指導する。
○小数倍の意味の理解において、基準量、比較量、割合の関係を的確に捉えることが難しいため、図を用いて、具体的に小数倍の大きさを理解できるように指導する。

３　質問紙調査の主な特徴と改善

【生活習慣について】

○「毎日朝食をとっている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は全国や県平均と、ほぼ同等である。「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童は全国平均を上回っている。

【読書】

○「読書は好きだ」と回答している児童の割合は、全国平均、県平均を上回っている。
○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に、「週に４回」「週に１～３回程度」行くと答えた児童は、全国平均を上回っている。

【学習習慣】

○家で、学校の宿題を「している」「どちらかといえばしている」と全員の児童が答えている。
○家で、学校の授業の予習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は、全国平均、県平均を上回っている。
○「家で、学校の授業の復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は、全国平均、県平均を上回っている。
○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」については、平日１時間以上・休日２時間以上する児童の割合が全国平均と同等である。

○「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の定着・維持について今後も各家庭と連携して推進する。
○読書好きの児童が多く、図書館等の利用状況もよいので、これからも読み聞かせ等を継続し、より一層読書活動の推進に努める。
○授業の復習をはじめ、家庭学習の方法等を指導し、家庭と連携しながら学習時間の確保、家庭学習の継続に努める。

※詳細につきましては、ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。なお、ホームページがスマホ対応になっていませんので、スマホからは、閲覧できません。

学力を「学力の樹」というイメージで捉えると、知識・技能は「葉」、思考・判断・表現は「幹」、意欲・関心・態度は「根」と位置づけられ、その三位一体からなるものを学力の全体像として捉えるそうです。今回の学力調査では、知識・技能を問うＡ問題は「葉っぱ学力」を測り、知識の活用を問うＢ問題は「幹学力」のある部分を評価するものだそうです。見える学力の向上だけでなく、「根っこ学力」・「幹学力」の向上にも力を入れ、「学力の樹」が大きく育つような学力向上に取り組んでいきたいと思います。これまで同様、ご家庭、地域の御協力・御支援をよろしくお願い致します。